

訪問看護ステーションでの取り組み

錦織理恵¹⁾

要 旨：訪問看護ステーションでは、在宅療養のための日々のケアから、医療機関・他職種との連携、人材育成のための研修医や学生実習の受入れ等、様々な業務を行なっている。令和元年度は自宅での看取りが10件あり、エンゼルケアをさせてもらった。各職種と連携をとりながら、主治医からの話の理解度や在宅で最期を迎える準備の程度を確認しつつ、状況に応じたケアを行なっている。本人だけでなく家族の支援も重要な業務である。今年度は、4学校の看護学生の実習や、島根大学医学部の学生や研修医の同行訪問を行なった。訪問に同行し、訪問途上車中での情報収集やケアに参加してもらっている。島根大学生の卒業研究や島根県立大学教員の研究にも参加、支援をさせてもらった。実習だけではなく各学校との関わりも、自己研鑽に繋がると考えている。

キーワード：訪問看護ステーション；在宅療養；医療機関・他職種との連携；人材育成

(雲南市立病院医学雑誌 2020；17(1)：印刷中)

はじめに

訪問看護ステーションでは、在宅療養のための日々のケアから、医療機関・他職種との連携、人材育成のための研修医や学生実習の受入れ等、様々な業務を行なっています。今回は、在宅での看取りの支援と実習受入れについてお伝えします。

在宅看取りについて

今年度は4月から2月までの間でご自宅での看取りが10件あり、エンゼルケアをさせていただいています。

主治医は雲南市立病院の訪問診療医であったり、在宅の先生であったりと背景は様々です。最期の時は時間を選びません。依頼があってから、いつでも緊急の対応が出来る様に、利用者さんの状態把握をしに出かけます。看取りとはエンゼルケアではありませんので、訪問看護介入の依頼があった時点で、各職種と連携をとりながら、主治医からの話をどのように理解されているか、在宅で最期を迎えるための準備がどの程度されているかどうかを確認しつつ、状況に応じたケアを行ないます。

苦痛があっても自宅で過ごしたいという本人さんだけでなく、自宅という医療資源も少ない環境の中で、徐々に衰弱していく利用者さんの姿に不安を抱えながら寄り添っておられる家族の支援も、定期訪問の他にポイントで訪問したり、24時間緊急携帯を持ちいつでも繋がっているということ伝えることで行なっています。

状態が悪くなっていかれる一方で、もう数日と主治医が判断された後も状態が一時的に回復し、1ヶ月以上最期の時間を家族と過ごされた方や、訪問診療の頻度も減らすことが出来、デイサービスにも通っておられる方もあります（この方はご健在です）。「自分の家」が持っている見えない力を感じずにはいられない症例です。

看取りが終わった後は、改めてお悔やみ訪問をして最期の時や本人さんや家族の歴史などを伺って帰ります。それをレポートとして記録に残し振り返ることで、スタッフとしてご供養の気持ちを共有すると共に、看護師自身のグリーフケアに繋がると考えています。ことが出来て良かった。本人も余命のことも医師から聞いていました。たくさんの親戚に会うことが出来て良かった。ひとつ心残りはちょうど亡くなったときに寝てしまい、見ていてやれなかったことです。皆さ

1) 指定訪問看護ステーションうんなん

著者連絡先：錦織理恵 雲南市立病院地域医療部訪問事業課 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-Mail: unnanhp@poem.ocn.ne.jp、kangobu@hotaru.yoitoko.jp

電話：0854-47-7530/ FAX：0854-47-7531

(受付日：2020年3月31日、受理日：2020年3月31日)

事例紹介

ここで、お悔やみ訪問でのお話しを紹介します。

- ・本人が病院はもう嫌だと言っていたので、家で看取んにはお世話になりました。
- ・亡くなる前日は仕事帰りの孫にも元気な様子を見せていたが、翌日 5 時に様子を見に行ったら冷たくなっていました。読書が好きで頭の良い母でした。こんなに早く逝くなら一緒に寝てあげれば良かったと後悔がありますが、精一杯世話が出来たのでそのことでは後悔はありません。本当にありがとうございました。

実習の受入について

令和元年度は 4 学校から 21 名の看護学生の実習(5/7～11/22 の間に 10 クール)と、島根大学医学部の学生、また研修医との同行訪問を行ないました。

情報収集や可能であればケアにも参加します。訪問地が遠方ならば、車中で様々な情報をスタッフから聞いています。

看護学生は限られた期間の中で、担当利用者さんの

看護過程を展開していきますが、毎日同じ患者さんを受け持つ病棟実習とは違った苦労を体験されます。振り返りをすると、各サービスとの連携の必要性や家族を含めた療養環境の把握、在宅看護の特殊性を感じたことを話されます。しかし看護の基本は病棟も外来も訪問も同じであることも説明しています。

個性豊かな学生と関わることで、自分自身が学んだり、利用者さんの療養の励みになったり、我が子の将来像と重ねたり・・・いろいろたいへんなことも多いですが、刺激にはなっています。ぜひ病棟での実習も機会を増やして、雲南市立病院の新しい力の卵を育てていければと思います。

また、今年度は、島根大学の 4 年生の卒業研究(テーマ:訪問看護師が透析看護師と共有の必要を感じた高齢透析者の情報)や島根県立大学の先生の研究(テーマ:訪問看護師への安全教育プログラムの実践によるインシデントに対する認識の変化)にも参加、支援をさせていただきました。実習だけではない各学校との関わりも、自己研鑽に繋がると考えています。

Our home nursing station's initiative

Rie Nishikori

Abstract: In our home nursing station Unnan, we provide not only daily home care for patients but also cooperate with other medical institutions and other health care workers and provide education for nursing students, medical students, and medical residents during home care visits. We have experienced 10 cases of home deaths, for which we provided after-death care. We care for patients depending on their situations and check their understanding of their diseases and their preparedness for dying at home. Providing nursing care for their families is also an important mission of ours. Last year, we have been learning with nursing students from four schools, medical students from Shimane University, and medical residents through information control and care in the patients' homes in our home-care visits. We participated in the scientific studies of students and educators from Shimane University and supported their works. We believe that cooperating with several educational institutions will help in our own self-improvement.

Keywords: home-visit nursing station; home medical and nursing care; cooperating with other medical institutions and health care workers; education for medical and nursing students and residents

1) Home nursing station Unnan

Correspondence:

Rie Nishikori, Community medical department, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

E-Mail: unnanhp@poem.ocn.ne.jp、kangobu@hotaru.yoitoko.jp

Telephone: 0854-47-7530 / Fax: 0854-47-7531